

anp はギリシャ語で「あえる」と読み、大気・天空を意味します。空で会える、仲間に会えるを合言葉に!



広報 あえる

HOSPA

Vol.56

夏も冬も北海道のスカイスポーツを楽しもう!

発行日 2015.1.15

寄稿 ～スカイスポーツフェアと私～

一般財団法人北海道開発協会 広瀬 素洋

SKY SPORTS EVENT 2014

- ・北海道各地で開催の
スカイスポーツイベント紹介

HOSPA杯

- ・パラグライダー
・ラジコン

第28回航空ページェント開催

トピックス

- ・ナウシカの飛行具「メーヴェ」
北海道の空を飛ぶ!
- ・第9回マイクロライト日本選手権2連覇!
田中匠(北海道)
- ・美唄スカイダイビング体験DVD完成

2014北海道スカイスポーツフェアイン当麻

- ・荒天のため中止

お知らせ

2015年度フェア鹿部町で初開催



2013滝川フェアにて
バルーン係留体験搭乗
撮影:広瀬 素洋



〒060-0042 札幌市中央区大通西4丁目道銀ビル TEL011-232-4347

公益社団法人北海道スカイスポーツ協会

HOKKAIDO SKY SPORTS ASSOCIATION

HOSPA

検索

スカイスポーツフェアと私

寄稿 広瀬 素洋

広瀬素洋氏は(一財)北海道開発協会で北海道開発の推進と地域づくりへの支援を目的に発行されている『開発こうほう』の企画編集担当者。故郷十勝帯広の素晴らしい空への思い、スカイスポーツ協会との関わり、これまでの北海道スカイスポーツフェアの印象などを寄稿していただきました。



白煙を引いて飛ぶグライダー
(滝川フェアでの曲技飛行)

あこがれ

少年時代は寝ると必ずと言っていいくらいよく夢を見たが、そのなかでも空を飛ぶ夢が一番多かった。母が再婚した後、何かと摩擦の大きかった家族関係が子ども心にプレッシャーとなり、開放を求めていたのかもしれない。今思い起こしても不思議なことに、飛行機に乗ったこともないのに、上空からの地上風景がリアルなのである。恐竜の進化形が鳥であるというが、原始の飛行へのあこがれが人にも残っているのだろうか。しかし、それはいつも急に浮力を失って墜落する恐怖心とセットになっていた。

私の生まれ育った十勝の帯広は、地平線には大雪・日高の山々が、郊外には防風林で区画された広大な農地が広がり、秋から冬には好天が続く。この十勝の高く大きな空が私の原風景である。

子どものころ、よく飽きもせず、竹とんぼやプロペラ飛行機を作った。竹とバルサ材、紙、ゴムひもが材料。竹ひごは設計図にあわせ火であぶって曲げた。あぶりすぎると焦げてもろくなる。プロペラが推進力、バルサ材のカーブが翼の浮力を作ることをこれで知った。

スカイスポーツとの関わり

1988年に北海道開発局の開発調整課開発専門官として移動したときの前任者・大宮晃一さん(元スカイスポーツ協会常務理事)が開発計画課でスカイスポーツ協会の立ち上げを担当していたことから、何かと大宮さんから声がかかるようになり、今日に。この年7月に出されたスカイスポーツネットワーク推進委員会(委員長・伊藤義郎北海道航空協会副会長)報告書「スカイスポーツネットワーク構想及び推進プログラム」は、航空管制圏等制約の少ない北海道の空域を海、陸に次ぐ新たな資源としてとらえるもの。この年、初めて「空の大陸北海道」をテーマとするスカイスポーツフェア、88が全

道を舞台に開催された。

スカイダイビング

1989年のスカイスポーツフェアは、札幌市の中心部にある豊平川の高水敷で開催。雨模様の天候に一喜一憂。スカイダイビングの標的への見事な着地に感激。

幾度か送迎で一緒に絡した日本落下傘スポーツ連盟理事長の應蘭芳さん(俳優、歌手。2012年までスカイスポーツ協会理事)から、「一度飛ぶと病み付きになりますよ」とスカイダイビングを何度か勧められたが、

子供のころの夢の中の墜落体験と重なり踏み切る勇気がなかったのが、今となっては残念。フェアでも以前は、男女一人ずつスカイダイビングのタンドム体験があったが、いずれも降りてきたときの表情から女性の大胆さを実感。

熱気球(バルーン)

札幌市の農試公園で熱気球に体験搭乗。ぼうぼうと燃焼音の中で上昇する快感とともに、浮力を失った場合を想像しているもう一人の私がいる。

空を飛ぶことの快感と、墜落の恐怖がないまぜになった感覚が正直なところであったが、恐怖感を克服しいつの日か、冬のオ



スカイスポーツフェア '88ポスター



タンドムでダイブ中のスカイダイビング



バルーングロー

ホーツクでフリーフライをしてみたい。2006年のフェアは、十勝の上士幌町で第33回北海道バルーンフェスタバルに合わせて開催。前夜祭の闇に光るバルーングローを初体験、堪能した。

紙飛行機

2007年の美唄のフェアでは、飯島実さんの体育館での紙飛行機の実演を見た。飛ぶことの原理を優しく織り交ぜながら飛ばした、芸術的とも思える、さまざまなタイプの紙飛行機たち。紙一枚から始まる上質な時間を体験した。

グライダー

滝川航空公園でモーターグライダーに体験搭乗。エンジンを切ると、風防を風が切る音だけ、滑らかな滑空、大空との一体化を実感した。そのときの操縦士が池田亨さん（当時滝川スカイパーク常務理事・故人）。2006年4月、池田さんがグライダーによる「日本縦断飛行」に成功。早速、当時編集を担当していた国土交通省広報誌『国土交通』への寄稿を依頼し掲載、好評を得た。



広報「国土交通」2006年8月号 随想 池田亨氏

竹とんぼ

えぞとんぼの会の今野実さんは、いつもご夫婦で参加、親と子らに竹とんぼ作りを優しく教えておられる。自作の羽根に重しの工夫をしたよく飛ぶ竹とんぼをいただいた。温かい笑顔が印象的。



えぞとんぼの会 今野実氏ご夫妻

ペットボトルロケット

圧力をかけた水の噴出で打ち上がるペットボトルロケット。発射ボタンを押す子供たちの緊張した顔と上がる歓声。身近なところから推力を知る。好奇心が、次代の高度化社会を生み出していく。

被写体として…

空をキャンパスに飛び回る飛行体は魅力的。空に雲があった方が風を感じられ、立体感が出ていい。後は多種多様な飛行体をその動くスピードに合わせてながらどうつかまえるかである。白煙を引いて飛ぶモーターグライダーやラジコン、モーターパラグライダーやマイクロライトプレーンの編隊飛行、長い尾をくねらせ音楽に合わせて踊るスポーツカイトなど。被写体をスピードに振り回されて見失い、シャッターチャンスを逃す悔しさは耐え難い。



モーターパラグライダーの編隊

今後の展開

まずは飛行体であることから安全の確保が第一。みんなが参加できるような体験型の遊具や、青少年科学館などとの協力でもう少し飛ぶことの科学的側面を面白く解説するようなプログラムがあっても。また、商用なので有料では調達は難しいが、飛行船をなんとかフェア会場に地上係留して、大きさを子供たちに実感してもらいたい。



スポーツカイト



マイクロライトプレーン

広瀬 素洋

1943年帯広市生まれ。北海道開発庁を経て、2000年から（一財）北海道開発協会。2001～2013年までスカイスポーツ協会企画委員会委員。（広瀬さんにはフェアの写真を毎年提供していただいています。）



2003年7月白老フェアにて
(右側広瀬氏 中央HOSPA藤田会長)

SPORTS EVENT

北海道各地で開催された

スポーツイベントご紹介



●6月29日(日) ■札幌市白石区 川下公園

第17回さっぽろカイトフェスティバル (風の祭典)

和風、大風、創作風、連風、スポーツカイトのデモンストレーション等が行われました。皆でチャレンジとして、子供たちと巨大イカ風揚げが行われ、長さ20メートル幅5メートルの巨大イカ風が大空に舞い上がりました。子供



たちは「ダイオウイカだ!」と興奮しながら風揚げを楽しんでいました。(札幌風の会)

●5月11日(日) ■北見市 市民会館

こどもがわんさかワンサカ! 「よく飛ぶ竹とんぼを作ろう」

こどもの歓声で北見市民会館は一日じゅう割れそうな賑わいと熱気に包まれました。日頃は(危ないからと)遠ざけられている小刀やマッチ、ローソクの火を果敢に駆使し、真剣そのもので作り上げた世界に一つの自分の竹とんぼ。飛んだときの笑顔を見るかぎりでは、作った時の苦労は楽しい経験値となったようです。(どこ竹オホーツク竹とんぼの会)



●2月15日(土)・16日(日) ■サロマ湖周辺

2014サロマ湖氷結フライト

競技は3点タスクを予定していましたが、体感温度が低く短点折り返し10キロとしました。山形から世界レベルの五十嵐さんがニューグライダーで参戦し大差で優勝、手の冷たさに耐え切れず途中棄権者が数名出ましたが、完走者10名で6位までが表彰されました。「湖面が凍ってその上をスノーモービルが走るなんて想像も出来ない」と初参戦の五十嵐さんの感想でした。(オホーツクMPG同好会)



●7月5日(土)・6日(日) ■遠別町

フライヤーズサミットin遠別2014

道内26機、道外23機、同伴した家族・友人などで70名以上が集結。初日は利尻富士に向かって



海岸沿いの50kmを往復するロングフライトを実施。夕方にはジギスカンで交流会、そして沈む夕陽をバックに夕焼けフライトを存分に楽しんだ。

翌日は雨のため競技は中止。遠別町及び地域おこし協力隊に多大なるご協力をいただき、大盛会となりました。

(北海道動力PGフライヤーズ協議会)



●6月22日(日)

■札幌市中央区 幌西自転車公園

竹とんぼ教室

近隣にお住まいの20数名の子供たちが参加。上手に作れた子や苦戦した子などがいましたが、親子ともども楽しいひと時を過ごしていただきました。ちなみに競技会の結果は滞空時間最高4秒25でした。

(えぞとんぼの会)



●5月5日(祝) ■滝川市 たきかわスカイパーク

子どもたちに大空のプレゼント 「大空と仲良しになろう」

少し風の強い日でしたが、当選した55名の子供たちやそのご家族につかの間の空中散歩を楽しんでいただきました。

紙飛行機教室、お楽しみ抽選会など楽しいメニューがいっぱいでした。

(SATA)



●9月14日(日) ■紋別市

スカイフェスティバル2014in紋別

小雨模様でスタートしたイベントは、オホーツク流水公園と紋別空港の2会場で、来場者3,800人を数えました。流水公園では空の日「くに来る」海上保安庁「うみまる」紋別市「紋太」のキャラクターが登場してのクイズで盛り上がり、熱気球体験搭乗には長い列ができ、歓声を上げていました。また、毛ターバグライダーやマルチコプターのデモ飛行、フライトシミュレーションも大好評でした。



●9月5日(日) ■札幌市

日ハム「稲葉篤紀選手・金子誠選手」感謝の連風揚げ

日本ハムファイターズ稲葉さん、金子さんの引退発表に札幌風の会田中会長は、「ファンの一人として何かできないか…」と連風を制作。稲葉さんの風には「お疲れさま数々の感動をありがとう」、金子さんの風には「21年間お疲れさま」と書いた短冊を付け、連風76連、全長80m以上の連風を揚げ「たくさんの感動ありがとう」と感謝の気持ちをのせました。(札幌風の会)



2014 SKY

スカイス

●7月20日(日) ■網走市

竹とんぼ夢はいつも大空へ

「オホーツクまるごと市」は食品、クラフト等の「本物の市」。子供たちに手作り竹トンボの遊びを体験してもらうことが、我々ブースの大きなテーマ。多くの親子でブースは満席になりました。あいにくの強風で、飛ばしっご会は中止になりましたが、竹とんぼの人気が高いことを実感しました。

(どこ竹オホーツク竹とんぼの会)



●9月21日(日) ■札幌市

空の日札幌丘珠空港フェスタ

当日は滑走路見学ツアーをはじめヘリコプターやグライダーの展示、紙飛行機教室、お子様向けのワークショップ(ぬり絵、マグカップ作り等)、綿あめ体験コーナーや絵本の読み聞かせなどたくさんの催しを行い、約1,000人のお客様に楽しんでいただきました。



●9月6日(土)・7日(日) ■本別町

本別きらめきタウンフェスティバル 2014

第18回目を迎えたイベント。今年は2日間とも晴天に恵まれ3,800人も来場しました。「東十勝花火大会」には埼玉県から70人以上の方が観賞「打上場所が近く圧倒的な迫力!」と、熱気球体験など多彩なプログラムに大きな歓声が沸いておりました。



●8月8日(金)～10日(日) ■上士幌町

第41回北海道バルーンフェスティバル

競技、オフィシャル、係留合わせて28機が参加。台風の接近で不安定な気象状況の中2フライト6タスク(競技)が実施でき、地元「上士幌バルーンクラブ」が初の総合優勝。9日夜の「バルーングロー」は熱気球15機がいっせいに点火し熱気球の幻想的な風景が観客を魅了しました。



●2015冬季イベントカレンダー

- 1月2日 札幌市 第38回新春えと連風100連揚げ
- 2月1日 中富良野町 富良野バルーンミーティング
- 2月7・8日 上士幌町 上士幌ウインターバルーンミーティング
- 未定 音更町 ゆめ気球とかち
- 2月7・8日 サロマ湖周辺 2015サロマ湖氷結フライト大会
- 2月15日 小清水町 スカイフェスティバル(MLP他)
- 2月15日 和寒町 わっさむ越冬キャベツバルーンミーティング

※4月からのイベント予定は4月中旬「スカイススポーツイベントカレンダー」ホームページでお知らせします。



雪原で開催される冬季イベント



えと連風「ひつじ丸君」を制作中

ラジコン・パラグライダー：ホスパ杯開催（各連盟とHOSPA共催）

ラジコン

第13回HOSPA杯争奪スケールアクロ競技会



フライングスケール大会開催

- 日時：8月31日(日)
- 場所：札幌エアームイツ専用飛行場

第13回目となる大会は晴天のもと、参加者自慢の愛機を携え、芝生がきれいに刈り込まれた滑走路に集結。審査員から、スケールアクロの演技飛行審査に当たっては、遠く高く飛行するのではなく近く低く飛行を行うようになど説明あり、模範演技を行ったあと競技が始まりました。競技参加者は日ごろの練習の成果を競い合い、各演技のあとお互い参加者の健闘を称えあい各賞の表彰式を行い無事終了しました。また、沿道のサイクリングロードでは、若者サイクリスト達もしばしば足を止めて「すごい、かっこいい」などと盛り上がり声援を送っていました。



初登場 高性能の「ゼロ戦」



歴代優勝カップ

パラグライダー

第10回 HOSPA CAP 2014in島牧

今年の大会は、前日の雨や強風も収まり、好条件のなか、参加者全員が日本海を望む絶景を満喫しました。競技は、滞空時間と各選手が撮ったフライト写真を、「島牧の良さをアピール」という視点で参加者同士審査する写真コンテストを行いました。また、日本海から太平洋まで32kmのXCフライト(濱田革連盟理事長)も飛び出し、エリアの新たな可能性を広げた大会となりました。
(今年濱田さんは9月23日ニセコエリアで羊蹄山より高い2,200mまでの上昇を記録しております。両フライトは同氏経験30年の中でも、とても感動的で充実した「空のビッグウェーブ」となりました。)



写真コンテスト優勝作品



島牧海岸を快適に飛ぶ



HOSPA CAP 2014 in 島牧の参加者

第28回札幌航空ページェント

主催：北海道航空協会、HOSPA
7月20日(日)札幌飛行場で開催



今回は、北海道航空協会創立50周年記念「空の日」行事として行われ、好天にも恵まれ、各飛行展示、地上展示のほか航空自衛隊によるブルーインパルスに参加とも相まって5万を超える観客が詰めかけ賑わいました。北海道滑空協会からグライダーデモ飛行、北海道ハング・パラグライディング連盟からモーターパラグライダーデモ飛行を行う予定でしたが、モーターパラグライダーについては風が強く中止となりました。

一般社団法人
北海道開発技術センター

dec

Hokkaido Development Engineering Center

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌ビル3F・4F
TEL 011-738-3361 FAX 011-738-1886
URL <http://www.decnet.or.jp/>

人に優しく、街にやさしく

地域の人々の幸せな暮らしづくりのパートナーたるべく事業を進めています。
火災保険、自動車保険をはじめ、最近の多様なライフスタイルにあわせて、
個人向け、企業向けに各種保険商品を取り扱っております。

住まいと保険のトータルプランナー——北海道建物

北海道建物株式会社

〒060-0063 札幌市中央区南3条西6丁目南3条グランドビル
TEL 011-281-2277 (損害保険、生命保険、医療保険)
TEL 011-281-0123 (不動産仲介、ビル・マンション賃貸管理)

地域の元気を水辺から！

一般財団法人石狩川振興財団

札幌市中央区南1条東1丁目5番地
電話 (011) 242-2242 FAX (011) 242-2445

北海道の空を飛ぶ

北海道開発協会が平成26年度地域活性化活動助成団体に選定支援する、「NPO 法人アートのチャレンジ滝川」



が実施する事業「Open Sky Project」(主宰八谷和彦氏)において、自作飛行装置「メーヴェ」が平成26年7月北海道では初めて滝川スカイパークにて試験飛行を実施しました。製作したのは東京の芸術家八谷和彦氏。同氏が高校生時代「風の谷のナウシカ」を観て感動、その後メーヴェをモデルにした実機制作のプロジェクトを立上げ10年がかりでその夢が実現。現在自らテストパイロットとして完成度を高めるべく試験飛行を続けており、空を飛ぶことを夢見る子供達や関係者から注目されている。



テストフライトの様子

田中匠選手(北海道)が2連覇達成!



山形県白鷹町において9月13日から開催のマイクロライト選手権大会で、美唄市のノースウィング所属「田中匠」さんが、体重移動型で総合優勝し前回大樹町での大会に続いて2連覇を果たしました。

田中さんは前回の優勝がまぐれではなかったことを証明しようと、緊張してチョット肩に力が入り、競技終了の日は心配でほとんど眠れなかったそうですが、翌日の発表で見事優勝したことを確認し表彰式でガッツポーズ。

大会参加者は強豪ぞろいで本人は運が良かったといっておりますが、田中さんは右足義足でスカイスポーツの素晴らしさを皆さんに知ってもらおうと、日々楽しみながら挑戦を続ける努力の人。そんな田中さんに敬意を表したいと思えます。目指せ3連覇!



美唄スカイダイビング体験DVD完成

HOSPA ホームページに掲載

2011年から開始した北海道スカイダイビング倶楽部(代表磯谷正勝氏)が運営する、美唄農道空港でのスカイダイビング体験搭乗(タンDEM)が4年目を迎え本州からの観光客中心に好評を博しています。その活動状況を映像にしてHOSPAのHP上に動画として掲載いたしますので1度ご覧ください。



搭乗前余裕の「いってきまーす」



離陸後地上で待つ仲間に手を振る

神戸市 幾山未有(いくやまみゆう)さん体験談 「最高!もう一回やりたい!!」

スカイダイビング経験者の友人の勧めで、初めてチャレンジすることにしました。小さな飛行機に乗り込むと、徐々に北海道の雄大な自然が目に入り込みます。天気も良くブロッケン現象も長時間見られました。20分ほど上昇し、いよいよ飛び降りるときには、地面が遠すぎるので思ったほど怖く感じることなく、一気に降りると前転し飛び降りました。まさに「最高!」でした。終わってすぐに、思わず「もう一回やりたい」と言ってしまったほどでした。



地上の仲間にハイハイイオーイと叫ぶ



顎を突き出し頭を後ろに練習どおりの姿勢がきちんとできている

「2014北海道スカイスポーツフェア当麻」は荒天のため開催中止となりました。



当麻町での北海道スカイスポーツフェアは平成4年の初開催から平成14年、平成21年と今回で4回目の開催となります。当麻町は地元スポーツ団体と協調して河川敷航空公園の整備、愛好者の受け入れ、指導者の育成など、スカイスポーツの活性化を通して地域の振興につながる活動に取り組んできました。当麻町、NPO当麻航空協会ははじめ、各スポーツ団体各位の協力を得て飛行展示、地上展示、各種体験、子供教室、アトラクション等の準備をすすめ、開催日の7月27日(日)を迎えました。



早朝バルーンの立上げ準備

当日早朝は薄曇りながらイベント開催可能な穏やかな天候になり、朝一番のプログラム「バルーン搭乗体験」の準備を始めておりましたところ、風雨が強まり、大変残念ながら飛行展示開始時刻午前9時30分にはイベントの中止を決断するに至りました。荒天による中止とはいえ、フェア全体の中止は平成2年の事業開始以来初めての事です。



中止決定後の会場

この日を楽しみに準備を進めていた当麻町や地元の皆さん、道内スカイスポーツファンの皆様には申し訳なく、また、大変残念に思っております。フェアは当協会のメイン事業としてこれからも万全の体制で取り組んでいく所存ですので、関係各位におかれましては今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年度「みんなのスカイスポーツ教室」中止。

今年度のスカイスポーツ教室は8月7日石狩市スポーツ健康課と共催で石狩市浜益にて計画しました。スポーツと自然の魅力発見をキーワードに「わんぱくスポーツスクール2014in浜益」を石狩市が主催、マリンスポーツ「シーカヤック」サッカー、ソフトボールなど様々なスポーツ体験会の中にスカイスポーツ

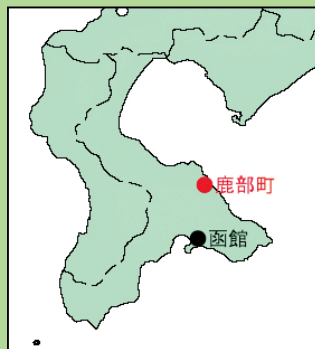
「夢ヒコキつくり教室」を加えていただきました。石狩市管内小学5,6年生30人の参加が決まり準備を終えていましたが、当日台風の影響で風雨が強まる予報が出て、やむなくスクールを中止することになりました。今年度は荒天による当麻フェアの中止に続き、スカイスポーツ教室も残念ながら実施することができませんでした。



お知らせ

《次期フェア開催地について》

2015年度の「北海道スカイスポーツフェア」は、道南では初めての開催となる「鹿部町」を予定しております。現在鹿部町や地元関係各位との調整を進めております。詳細については3月の当協会理事会において正式に決定次第お知らせいたします。



鹿部飛行場

●登山 ●キャンピング ●カヌー ●XCスキー
アウトドアスポーツ専門

秀岳荘

北大前店 / 北区北12条西3丁目 ☎726-1235
白石店 / 白石区本通1丁目南2 ☎860-1111
旭川店 / 旭川市忠和5条4丁目 ☎(0166)61-1930

HOSPA

ホスパ会員募集

当協会では自治体をはじめ団体、法人、個人の方をHOSPA会員として募集中。スカイスポーツに興味のある方は、下記ホームページをご参照の上、お電話にてご照会ください。

公益社団法人北海道スカイスポーツ協会 (HOSPA)
電話011-232-4347

ホームページは「HOSPA」で検索